

印旛明誠高校 2020パワーアップ計画

平成22年4月、当地で産声を上げた本校は、県下で最も新しい県立高校として、地域の期待を担いながら、5年間にわたり着実に充実発展を遂げてきました。

当時、本校開設に向け県教育委員会が掲げた3つの理念

- ・ 進学を重視した普通科の単位制高校
- ・ 国際化に対応した高校
- ・ 地域の特性を最大限に活用して人材を育てる高校

の実現に向け、全職員が一丸となって取り組んできた結果、地域の方々からも一定の評価をいただくようになってきました。

しかし、上記理念を達成するために残された課題が多々あるのも事実です。

そこで、これまでの取組について評価すると共に、地域の方々の御意見等もいただきながら、今後5年間に取り組むべきこと等について、ここにパワーアップ計画（行動計画）としてまとめることとしました。

なお、計画の実行に当たっては、本県教育委員会が平成26年度末までに策定予定の「第2期千葉県教育振興基本計画」の進行にも注視しながら、進めるものとします。

平成27年3月23日 千葉県立印旛明誠高等学校長 森本 均

目 次

はじめに ～再編の理念から見るこれまでの取組とその評価について～

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1 進学を重視した普通科の単位制高校について | P 2 |
| 2 国際化に対応した高校 | P 4 |
| 3 地域の特性を最大限に活用して人材を育てる高校 | P 5 |

印旛明誠高校パワーアップ計画

- | | |
|---------------------------|-----|
| ○ 計画の期間 | P 6 |
| ○ 開校10年後である平成32年度に向けた数値目標 | P 6 |
| ○ 目標達成に向けた具体策 | |
| 1 進学を重視した普通科の単位制高校 | P 7 |
| 2 国際化に対応した高校 | P 7 |
| 3 地域の特性を最大限に活用して人材を育てる高校 | P 8 |
| 4 その他 | P 9 |
| ○ 目標達成に向けた年次計画 | P 9 |

○ はじめに ～再編の理念から見るこれまでの取組とその評価について～

1 進学を重視した普通科の単位制高校

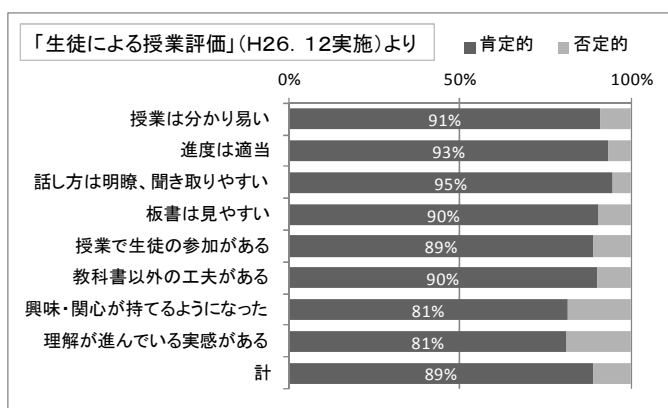
【取組】

- ア 習熟度別授業、少人数授業、7時間授業（毎週火曜日）
- イ 進学に対応した多様な科目（日本史・世界史研究、数学研究、応用英語等）
- ウ 土曜日進学学習会、進学補習（朝講座、放課後講座、夏季・冬季講座）
- エ サテラインゼミ（夏季、冬季、春季講座）
- オ 高大連携講座（東京電機大学）

(1) 授業評価について

グラフから分かるように「興味・関心」及び「理解」の点に課題があることが分かります。

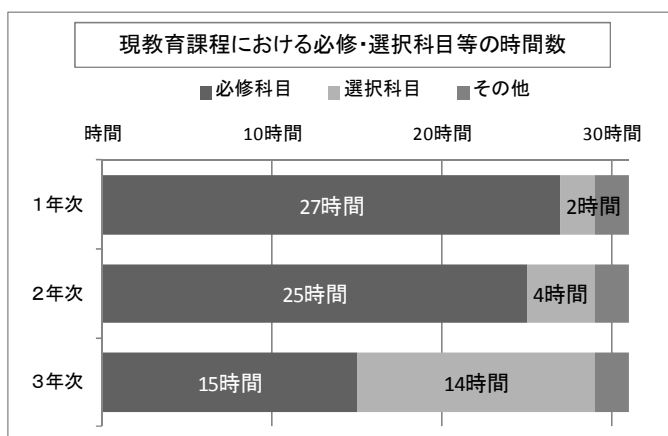
「進学重視の単位制高校」を謳う限り、「上級学校に進学して学びを一層深めたい」と思えるような授業を展開しなければならないと考えます。



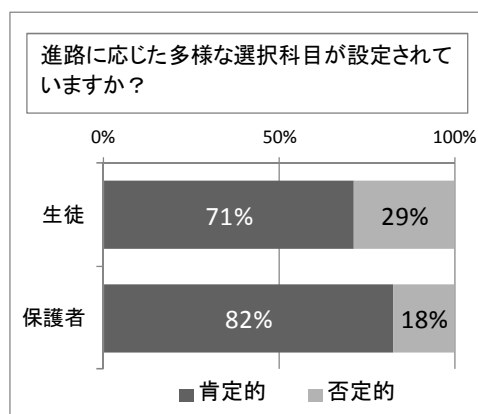
(2) 多様な選択科目について

単位制の一番の特徴は、多様な選択科目の設置により生徒の学びの選択肢を拡げることができるという点にあります。

しかしながら、右図のように本校ではそれほど選択科目が多い方ではありません。



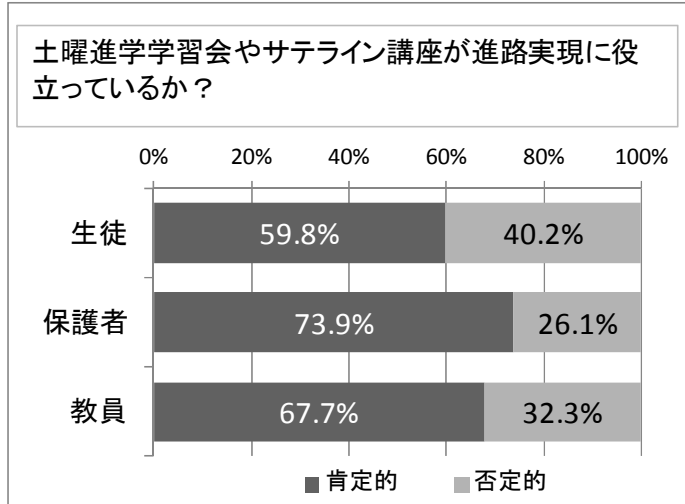
右下のグラフからは、このような教育課程でも、7割の生徒、8割の保護者から肯定的な評価を受けていることが分かりますが、「『進学重視の単位制高校』とは何か」について再度その定義を見直しながら、本校ならではの相応しい教育課程の在り方について、再検討する必要があるものと考えます。



(3) 土曜進学学習会、サテラインゼミ、高大連携講座について

グラフは全生徒対象の調査結果です。学習会やゼミの参加者だけを対象に調査すればこのような数字にはならなかったと推測できます。

東京電機大学との高大連携講座も含め、高い志を持った生徒の実力をさらにアップさせ、目標を達成させるためには、今後も工夫、改善を重ねながら継続していかねばならないと考えます。



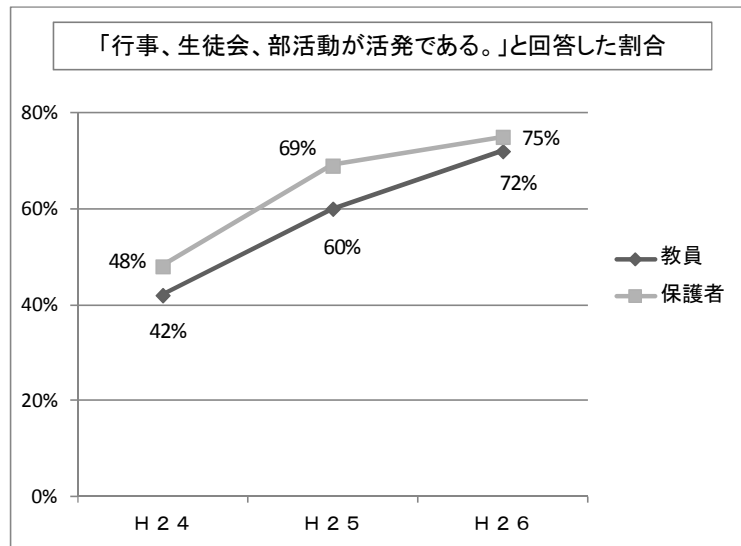
【参考】行事、生徒会活動、部活動が年々活発に！

右のグラフのように、「行事、生徒会活動、部活動が活発」と回答している教員、保護者の割合が年々増加しています。

生徒が自分たちで行事を企画したり、部活動を運営したりできるようになってきた証拠かもしれません。

しかしながら、今年度の調査によると「本校に誇りを感じている」生徒は54%しかいませんでした。

生徒達に自信をつけさせ、本校を誇りに思えるような教育活動を展開していくことが非常に重要ではないかと考えています。 ※ 平成26年度の部活動加入率 90.8%



【ミニ集会で出された意見、提案】

- ・ 単位制であるならばもう少し進学率を上げるべき。(国公立)
- ・ 向上心のある生徒に対し、より高いレベルの教育をして欲しい。
- ・ 塾に行かなくても受験や日常の授業に対応できる学校であって欲しい。
- ・ 英語以外(中国語、韓国語)が学べると良い。
- ・ 土曜進学学習会も習熟度別にしてもらえたらもっと参加しやすい。
- ・ 学習面だけでなく、その中に逞しさを育てる教育をして欲しい。
- ・ 人物、部活動面で引っ張ってくれる入試システムにして欲しい。

2 国際化に対応した高校

【取組】

- ア 台湾修学旅行、台北市内の高校との交流、台湾大学生による班別学習
- イ 台湾からの訪日高校生との交流
- ウ 成田日本語学校留学生との交流
- エ 英語学習プログラム導入によるオーストラリア高校生との交流
- オ 海外視察団の受入れ

(1) 台湾修学旅行

事前学習（台湾からの留学生との交流など）や台北市立内湖高級工業職業学校との交流、現地大学生の案内による班別市内研修などを通して、海外に対する興味・関心が一層高まったものと考えられます。

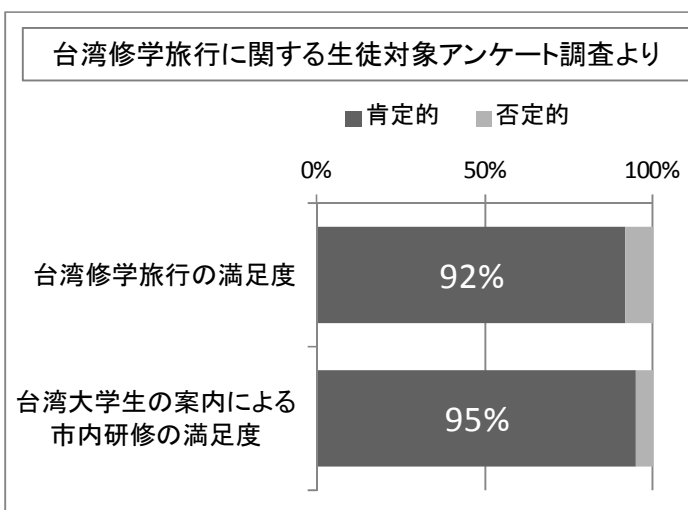
グラフのように満足度にも非常に高い者がありました

が、特に高校との交流では「近い内にまた交流したいと思えるほど内容の濃い、とても良い経験になった交流会でした。是非、企画を考えて欲しいです。」という生徒の声に代表されるように、その効果を改めて認識することができました。

海外だからこそできる貴重な体験活動を今後も継続していきたいと考えます。

本年（27年）3月には、台北市立内湖高級工業職業学校の生徒90名が本校を訪れる予定です。日本そして本校の良さを少しでも知ってもらえるような交流ができるように現在準備を進めています。

英語学習プログラムについては、昨年（26年）6月から1～2年次生対象の「コミュニケーション英語」の授業において、オーストラリアの高校生とのメールによる交流がスタートしました。授業内だけでなく、放課後や自宅において自主的に交流を進める生徒も出てきており、その成果を検証しながら今後につなげていきたいと考えています。



【ミニ集会等で出された意見、提案】

- ・ 異文化理解を強化する。（国際交流協会はコーディネータ役を果たす。）
- ・ 世界に羽ばたく精神の醸成をする。
- ・ 地域社会への還元をする。（国際交流クラブを作り、地域での交流イベントに積極的に参加する。）
- ・ 地元でも国際交流を積極的に進めるために、国際交流に関する部活動を設置してはどうか。
- ・ 台湾への修学旅行は大賛成。英語圏よりもアジア圏で、英語力に自信を持たせることは大切。

3 地域の特性を最大限に活用して人材を育てる高校

【取組】

- ア 市内の施設等でのインターンシップ
- イ 地域人材（特別技術指導顧問）による部活動支援（ゴルフ部、剣道部等）
- ウ 学校周辺でのコスモス栽培（464区プロジェクト）
- エ 市内社会福祉協議会との協働活動（募金活動等）
- オ 吹奏楽部による出前演奏（ビッグホップや印旛学舎等での演奏活動）
- カ ダンス同好会による地域のお祭り等への参加と住民との交流
- キ 地域のプロピアニストによる音楽教室

(1) インターンシップ

本年度（26年度）は、市内4施設（市立保育園、同図書館など）に御協力をいただきインターンシップを実施しました。

「子どもたちの命を預かる責任をより強く感じる事ができた。」「進路を考える上での貴重な体験となった。」「大きなやりがいや楽しさを感じる事ができた。」「好きなだけでは勤まらないということを改めて感じた。」などと生徒の感想にもあるように、将来を考える良いきっかけとなったようです。

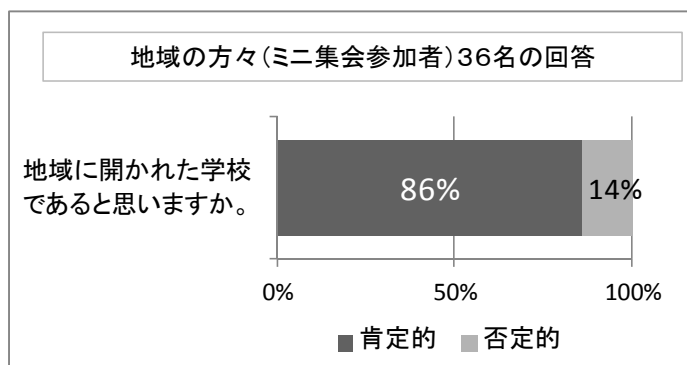
今後も、一人でも多くの生徒が参加できるように、インターンシップ先の開拓に努めながら、キャリア教育の充実に努めたいと考えます。

(2) 地域との連携

「地域との連携」の大きな目的は、学校の教育力を地域に還元するとともに、地域の教育力を学校教育に生かすことであると考えます。

【取組】にもあるように部活動等の多くの生徒が地域に出て活躍しています。また、地域の方々との協働活動に取り組んだり、地域の専門家に部活動等の指導に当たっていただいたりもしています。

グラフは、11月に開催したミニ集会参加者に調査した結果ですが、85%以上の方々から「地域に開かれた学校である。」との回答を得ました。



今後は、学校の教育力を地域に還元するために学校として何ができるのか、検討を進めたいと考えます。

【ミニ集会で出された意見、提案】

- ・ 地域活性プロジェクトを立ち上げ、高校生が中心となってアイデアを出し、寂れた商店街を活性化させていく。
- ・ 中学校は地域で出張授業を行っている。高校との合同でボランティアをしてみてもどうか。

印旛明誠高校 2020パワーアップ計画

○ 計画の期間

平成27年度から平成31年度までの5年間とし、平成32年度（2020年度）を完成年度とし、次に続く計画を策定することとします。

○ 開校10年後である平成32年度（2020年度）に向けた数値目標

- 1 「進学を重視した普通科の単位制高校」として
 - 「上級学校に進学して高校での学びをさらに深めたい」と希望する生徒の割合
→ 90%（平成25年度卒業生の上級学校進学率は78%）
- 2 「国際化に対応した高校」として
 - 「積極的に海外の人々と交流したい」と希望する生徒の割合
→ 90%（平成26年度の台湾修学旅行の満足度は92%）
- 3 「地域の特性を最大限に活用して人材を育てる高校」として
 - 「本校に誇り」を感じている生徒の割合
→ 80%（平成26年度の調査では54%）

【再編の理念の確認】

1 進学を重視した普通科の単位制高校

- ・ 「進学重視」とは、単に大学進学率を上げるということではなく、生徒が「上級学校に進学してもっと学びを深めたい」というような学習意欲を育てることに重点を置いた教育活動を展開すること。
- ・ 「単位制の良さ」とは多様な選択科目を設置することにより、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に応じた充実した教育活動が展開できること。

2 国際化に対応した高校

- ・ 「国際化への対応」とは我が国の伝統、文化や千葉県の良さ、そして本校の特色等について外国人に説明することができ、また、積極的に海外と交流しようとする生徒を育てること。

3 地域の特性を最大限に活用して人材を育てる高校

- ・ 「地域の特性の活用」とは東京電機大学や小中学校等の教育関係機関、印西市社会福祉協議会や印西市国際交流協会等の市の機関・団体、地域住民のグループ（自治会等）との連携を図りながら教育活動を展開すること。連携を図るということは、単に地域の教育力を活用するだけでなく、学校の教育力を地域に還元することも含めて捉える。

○ 目標達成に向けた具体策

1 進学を重視した普通科の単位制高校

(1) 学力向上部の新設

大学を主とした上級学校に進学してさらに学びを深めたいという生徒を支援する学力向上部を平成27年度に新設します。学力向上部では、学校評価等も参考にしながら、授業改善、学力向上対策、大学進学補習等について専門的に検討し、また、企画・運営します。検討の過程では、他校の例についての調査研究も行うものとしてします。

(2) 新たな教育課程の検討、実施

これまで以上に単位制の良さを生かし、生徒一人一人が興味・関心に応じての学びを深めることができる新たな教育課程を平成29年度入学生から実施できるように教育課程改善検討委員会において検討を進めます。

教育課程の検討に当たっては、課題研究の設置も視野に入れて進めます。

(3) 体系的なキャリア教育の充実

生徒一人ひとりに、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育を3年間にわたって体系的に展開するために、これまでの進路指導の在り方を見直しと精選を行い、平成27年度末までに新たなキャリア教育計画を立案します。

2 国際化に対応した高校

(1) 国際理解教育担当部署の設置

国際理解教育を推進するために、平成27年度に教務部内に新たに「国際係」を設けます。

国際係では、国際交流の窓口としての機能を果たすとともに、国際理解教育推進委員会を主宰して、本校ならではの国際理解教育を推進します。

また、学校は国際係担当職員の国際理解研修、外国語研修等について積極的に支援するものとします。

(2) 国際交流等を目的とした生徒会組織の新設

生徒が自主的かつ能動的に国際交流等に取り組める環境を整備するために、国際交流等に関する生徒会組織（委員会若しくは部活動等）の新設について、平成28年度末を目途に生徒会と共に検討を進めます。

(3) 海外修学旅行の継続

本校は開設当初から韓国修学旅行を実施し、平成26年度からは台湾修学旅行を実施するようになりました。

今後も国際理解教育の一層の充実を図るために海外修学旅行を継続実施します。

なお、修学旅行先での交流先（高校）が固定化されるようになった場合は、当該校との姉妹校提携も視野に入れて、修学旅行の検討を進めます。

また、修学旅行事前学習段階では、海外からの留学生も招いた研修を行うなど、生徒一人ひとりが自らテーマを設定し、調べ、考え、検証できる充実した修学旅行となるように、国際係とも連携して担当年次で準備を進めることとします。

（４）印西市国際交流協会との連携

印西市国際交流協会との積極的な連携を図ります。

同協会にコーディネータ役を依頼し、市内の大学の留学生との交流会、文化紹介イベントへの本校生徒の参加、本校の学習活動に対する留学経験者、海外勤務経験者等の派遣を実現します。

また、同協会には、留学相談やキャリア形成に向けての相談等の支援も仰ぎます。

3 地域の特性を最大限に活用して人材を育てる高校

（１）地域連携担当部署の設置

地域との連携を推進するために、平成27年度に総務部内に新たに「地域連携係」を設置します。

地域連携係は、地域連携の窓口として、本校の教育力の地域への還元と地域の教育力の活用についてのコーディネータ役を務めます。また、「開かれた学校づくり委員会」の円滑な運営等にも携わります。

（２）各種団体・機関等との連携強化

印西市社会福祉協議会をはじめとする地域の機関や近隣の小中学校との連携を推進します。

例えば、社会福祉協議会の仲介によるボランティア活動や、小中学校に出向いての生徒による出前授業など、これまでの取り組んでこなかった新たな活動にも積極的に取り組みます。また、地域におけるインターンシップについても、依頼可能な団体・機関等の新たな開拓に取り組みます。

なお、滝野中学校、西の原中学校にも声を掛けてジョイフル本田で開催している美術部・書道部合同の作品展については、今後も継続して実施します。

（３）学校開放講座の開催

平成28年度末を目途に、学校開放講座の開催に向けて検討を進めます。

検討に当たっては、地域連携係が中心となって、本校職員の特長、地域の状況等も視野に入れながら、現状の中で実施可能な講座の準備を進めます。その際、生徒の力の活用も視野に入れて準備を進めます。

(学校開放講座の例)

- ・パソコン講座（地域住民対象に夏季休業日中に実施、高校生がアシスタント）
- ・夏休みの理科自由研究にチャレンジ（夏季休業日中に実施）
- ・親子で書き初め教室（冬季休業日中に実施）
- ・親子で英会話（夏季休業日中に実施、高校生がアシスタント）

4 その他

(1) 組織体制の充実

ア 運営委員会を企画運営委員会に

現在の「運営委員会」を「企画運営委員会」に改め、学校全体に係る新たな企画や課題解決に向けた改善策等について積極的に議論を行う場とします。

イ 係主任の専門化

迅速かつ的確に行動できる組織体制の確立に向け、部長、年次主任だけでなく、部内係主任についても、必要性に応じて学年に所属せず学校全体を見ながら専門的に取り組めるようにします。

ただし、生徒の普段の様子を授業以外の場でも知ることは大変重要であり、例えば集会や登校指導など全職員で取り組むべき事項については、その限りではありません。

(2) 年間行事等の見直しと精選

「進学重視の単位制」、「国際化への対応」、「授業時数の確保」を基本とし、2学期制のメリットを最大限に生かせるように、企画運営委員会において平成27年度中に年間行事等の見直し、精選を図ります。

(3) 入学者選抜の在り方に関する検討

入学者選抜改善検討委員会において、平成27年度中を目途に、本校の理念を理解した上で積極的に学びたいという意欲ある中学生をより多く選抜できる方法の検討を進めます。

(4) 生徒会活動の一層の充実、活発化

生徒の自主的活動を積極的に支援するとともに、生徒会活動の一層の推進させるためのリーダーの養成に取り組みます。

○ 目標達成に向けた年次計画

【平成27年度】

- | | |
|---|----------------------------------------------|
| 1 | 「上級学校に進学して高校での学びをさらに深めたい」と希望する生徒の割合
→ 80% |
| 2 | 「世界のこともっと学びたい」と希望する生徒の割合 → 80% |
| 3 | 「本校に誇り」を感じている生徒の割合 → 60% |

- ・ 平成28年度入学者選抜に向けた新たな入学者選抜の検討
- ・ 平成29年度入学生に対する新たな教育課程の検討
- ・ 年間行事の見直し、精選
- ・ 国際交流に関する生徒組織（委員会、部活動等）新設の検討、準備

- ・ 学校開放講座検討、開設準備
- ・ 生徒会リーダー養成プログラムの作成

【平成28年度】

- | | |
|---|----------------------------------------------|
| 1 | 「上級学校に進学して高校での学びをさらに深めたい」と希望する生徒の割合
→ 85% |
| 2 | 「積極的に海外の人々と交流したい」と希望する生徒の割合 → 80% |
| 3 | 「本校に誇り」を感じている生徒の割合 → 65% |

- ・ 平成29年度入学生に対する新たな教育課程の決定、届け出
- ・ 見直し、精選を図った年間行事計画に基づいた教育活動
- ・ 国際交流に関する生徒組織スタート
- ・ 第1回学校開放講座開催
- ・ 第2回生徒会リーダー養成プログラムの実施

【平成29年度】

- | | |
|---|----------------------------------------------|
| 1 | 「上級学校に進学して高校での学びをさらに深めたい」と希望する生徒の割合
→ 85% |
| 2 | 「積極的に海外の人々と交流したい」と希望する生徒の割合 → 85% |
| 3 | 「本校に誇り」を感じている生徒の割合 → 70% |

- ・ 新たな教育課程開始（平成29年度より段階的に実施）

【平成30年度】

- | | |
|---|----------------------------------------------|
| 1 | 「上級学校に進学して高校での学びをさらに深めたい」と希望する生徒の割合
→ 90% |
| 2 | 「積極的に海外の人々と交流したい」と希望する生徒の割合 → 90% |
| 3 | 「本校に誇り」を感じている生徒の割合 → 75% |

【平成31年度】

- | | |
|---|----------------------------------------------|
| 1 | 「上級学校に進学して高校での学びをさらに深めたい」と希望する生徒の割合
→ 90% |
| 2 | 「積極的に海外の人々と交流したい」と希望する生徒の割合
→ 90% |
| 3 | 「本校に誇り」を感じている生徒の割合
→ 80% |